

「世界の人びとを呼び込む観光協創プロジェクト」 平成26年度第1回推進会議の概要について

「世界の人びとを呼び込む観光協創プロジェクト」の平成26年度第1回推進会議を、平成26年7月23日(水)に開催しました。

今回の推進会議には、7名の委員のうち4名の方にご出席いただくとともに、会議の進行を補助するファシリテーターとして国立大学法人三重大学人文部教授の朝日幸代氏にご出席をいただきました。

平成26年度第1回推進会議の概要は、以下のとおりです。

「世界の人びとを呼び込む観光協創プロジェクト」委員及びファシリテーター

※敬称略、カッコ書は役職

〈委員〉

田上 至 (特定非営利活動法人ふるさと企画舎 理事長)

※田上委員はご欠席

野口 あゆみ (特定非営利活動法人伊勢志摩バリアフリーツアーセンター 事務局長)

李 相海 (鳥羽シーサイドホテル国際担当)

※李委員はご欠席

桂 三輝 (三重県観光キャンペーン PR 隊長、2代目よしもと三重県住みます芸人)

※桂委員はご欠席

岡田 英美 (近畿日本鉄道株式会社 伊勢志摩事業推進部 課長)

清水 清嗣 (鳥羽商工会議所 専務理事)

稲垣 八尺 (伊賀上野観光協会 専務理事)

〈ファシリテーター〉

朝日 幸代 (国立大学法人三重大学 人文学部 教授)

〈推進会議の進行概要〉

会議の進行概要は以下のとおり

開会 13:30

課題抽出と意見交換

次の2つのテーマに関して、委員から現場の声を伺うとともに、短期・中期・長期の視点から取り組む内容について意見交換

○リピーター、三重ファンの確保について

○三重県への継続的な誘客促進について

閉会 15:30



〈課題抽出及び意見交換〉

〔○：委員からの主な意見、▶：事務局の応答〕

～観光関係の統計データについて～

○発地別の観光消費額のデータはあるか。

関西の方は、増税後シビアになっている。

▶現在はまとめていない。

○障がい者の方は、肌感覚でいうと、消費額が高い。

⇒○そのデータはあるか。

▶調べてみたい。

○外国人の観光消費額を教えてほしい。

他県の状況はどうか。高山など、外国人観光客が多い場所は消費額が高い。

▶観光実態調査ではわからないが、観光庁や他県の調査状況などの参考情報を準備したい。3年前の県調査結果も確認する。

○ホテル、旅館別に、客室稼働率の情報がほしい。より具体的になると、中身の議論ができる。

▶稼働率は、観光庁が県単位で出しているが、市町単位は確認してみたい。

⇒○エリア別の個票があるとよい。県から依頼すれば観光庁も提供しやすい。異なる切り口で分析すると異なるものが見えてくることがある。

～インバウンドについて～

○貸切バスの料金値上げに伴い、鉄道や高速バスなどの公共交通機関を使ったツアー利用が増えつつあり、対策を練っている。

○インバウンドは県内1泊だと泊まるだけになってしまう。海、山、その間にホテルという2泊3日のコースづくりが必要。

○海外からの観光客にとって、近鉄レールパスはJRレールパスより使い勝手が良い。出発地で入手できるようにしてほしい。

⇒○JRと近鉄のセットパスはできないか。

⇒○なかなか難しい。

○三重交通のHP、特に高速バス情報を外国語対応にしてほしい（近鉄は、英、繁、簡、韓の4言語あり）。

○ポスト遷宮の恒常的な誘客はインバウンドと受け止めているが、外国人向けの情報は少なく、駅舎も4か国語対応ができていない。

○近鉄レールパスは、倍々で増え、1万2千部発行している。韓国、台湾、香港が多い。空港から南海、名鉄が利用できる近鉄レールパス・ワイドもある。

○神宮は外国人にとって未知数。三重に来てもらう目的を明確に打ち出す必要がある。

○インバウンドには、関空→ハルカス→三重というモデルコースとレールパスとを車の両輪として、現地で情報発信していくことが重要と認識している。

○インバウンドとバリアフリーは重要なので、県でも対策、取組を進めて欲しい。

○鳥羽の宿泊施設は今年6月から勢いが弱くなった。夏休みは従来通りの見込みだが、おかげ年は早く息切れしたという感じがしている。

○JRのレールパスは使いやすく、高山、金沢に流れてしまう。インバウンド誘客にはJRも意識した方がよい。

○オリンピックを前に、高山は、セントレアからのバス輸送にも力を入れている。京都市が今年、米国の大手旅行雑誌「TRAVEL+LEISURE」が発表する「訪れたい世界都市」の1位に選ばれるなど、強弱の格差が拡大していく。

○三重県のポスト遷宮は厳しい。インバウンドのトップセールスやミッションはどこでも行っている。県は、東京五輪、リニア開通を視野に、戦略や基盤整備をどうするかを行程表を示してほしい。

○近鉄でカード決済ができないことは、特

に海外からの観光客にとって不便。

- バックパッカーが安宿を利用するのは、値段が安いからではなく、イン・アウトの時間を気にせず自由にできるから。食事や買い物には消費している。
- 土日は銀行が休みで両替ができず、困っている人が多い。



～サービス産業の人材確保について～

- 観光産業の基盤であるサービス産業の人材難、人材確保が課題。
- サービス産業人材の定着率向上を目的とした事業を実施し、新卒 5 年以内の退職率抑制（現状は半分以上が退職）、首都圏からキャリア人材を呼ぶための PR を行う。
- ⇒○伊賀でも餅やなどが消えていく。地元の消費が減ったことも原因だと思う。
- ⇒○二見も後継ぎがなく事業者が減っている。仲居さんも中高年が多くなっている。

～バリアフリー観光～

- 神宮の車いす参拝者が急増し、空きを待つ人もいる（1日平均 68 名が利用）。
- 車いすの貸出を事業化できないか、伊勢

市と検討中。また、人材がいれば、車いすが出払っていても参拝可能。次の遷宮へ向けた整備ができればよい。

- 神宮には、車いす専用の駐車場がなく、降りるための駐車場も少ない。
- JR 二見駅のバリアフリー化を進めてほしい。地元利用も増える。

～観光消費額について～

- 消費額を増やすには、滞在時間を増やすこと、つまり、連泊してもらうことが重要。
- 今後は、数を追うことだけでなく、質を高めることも必要。
- ⇒○障がい者は、ゆったりと 2 泊 3 日で旅行する方が多い。車いすのレンタルがあり、トイレが整備されていれば、滞在時間は増える。

次回の開催予定

次回の推進会議は、今秋を目途に開催予定です。

今回の会議でいただいた提案は、今後の取組の参考とさせていただきます。